

管球王国

季刊THE TUBE KINGDOM 1999 AUTUMN
Stereo Sound Vol. 14



ハイパワー真空管アンプ
最新モデルの徹底試聴

気軽に楽しみたい

フルレンジユニット
の魅力

マクイントッシュ

MC116/MC30

EL34

プッシュプルキット
を組む

エキサイティング
コンポーネント



NAGRA

ナグラ
Power Amplifier
VPA

¥2,200,000(ペア)

●出力:50W ●入力端子:LINE(バランス)1系統 ●入力感度/インピーダンス:400mV/100kΩ ●使用真空管:12AX7×2, E182CC×1, 845×2 ●寸法/重量:W110×H500×D300mm/13.5kg ●問合せ先:大場商事(株) ☎03(3479)5181

Preamplifier
PL-P

¥1,800,000

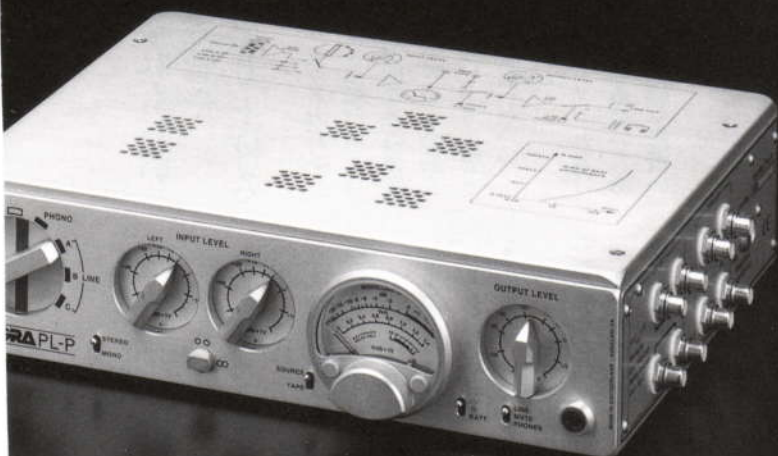
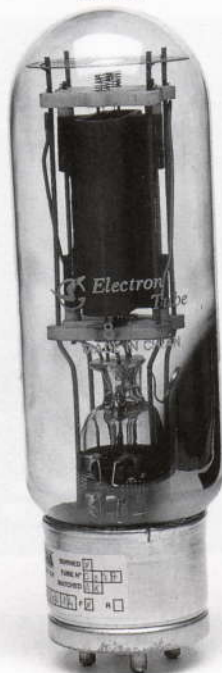
●入力端子:PHONO1系統, LINE(アンバランス)3系統 ●入力感度/インピーダンス:PHONO(MC)・0.1mV/100Ω, 300Ω(切替), PHONO(MM)・0.5mV/50kΩ, LINE・100kΩ ●出力端子:アンバランス2系統 ●出力インピーダンス:60Ω ●使用真空管:ECC81/12AT7×3, ECC83/12AX7×5 ●寸法/重量:W310×H76×D254mm/4.45kg(充電池含む) ●備考:MCTランス内蔵

直熱3極管らしい透明感をたたえて
音場が深く、清楚で奇麗な音色をもつ。
デリカシーに富み重音のハーモニーも美しい

回路構成とプロフィール

VPAは出力50Wのモノラルパワーアンプ。12AX7で組んだ差動増幅回路の初段、ドライブ電圧を稼ぐため双3極管の中ではプレート損失の大きいE182CCを用いたドライバー段、大型の直熱3極出力管845プッシュプルファイナル段という構成で、位相のズレや歪みが極めて少ないうえに内、外部のノイズにも強い全段完全対称のバランス回路が大きなポイント。一方、PL-Pは、フォノアンプ搭載のプリアンプ。フォノ段は、12AT7と12AX7で構成されMCカートリッジの昇圧は新開発のトランスで行なう。ラインアンプ段の真空管は12AT7×2, 12AX7×4の計6本。電源はAC/バッテリー両用で、AC電源の場合、整流されたDCはリチャージブルバッテリーに入った後、DC-DCコンバーターを経て各段に供給される。より高純度のDCでの動作を目指した設計である。なお、「ナグラ」ブランドの製品は9月より輸入商社が変更になっている。(篠田寛一)

ナグラ特注の中国製
845



*Power Amplifier
Preamplifier*

小林 貢

音場は広がり、奥行きが十分で3次元的なリアルさを感じる。肝部も安定感があり、低音の分解能が高くセパレーションも良い。

アルミパネルを多用した、オリジナルティにあふれるデザインのアンプだ。十分なSN比が確保された付帯音のないナチュラルで瑞々しいサウンドは、新時代の真空管アンプを意識させる。「プルームス」は鮮度の高いクリアーな響きが得られ、イントロ部のヴァイオリンは艶やかで美しい。そしてピアノも立ち上がりがしっかりとし、一音一音に明晰さがある。「マラー

5番」では、音場に濁りがなく広がり、奥行きが十分に感じられ、3次元的なリアルさがある。肝部も安定感があり、低音域の分解能も高く空気感も鮮明で低音楽器群のセパレーションも良い。

コー成分にも鮮明さがある。ブラッシングも躍動的で、軽快にスウィングするという印象だ。「ライト&シェイド」ではダイレクト2チャンネル録音らしいピュアな音が得られ、三者の表情をヴィヴィッドに描き出す。小山太郎の多彩なシンバルワークでも、カップ近くの鋭敏な音やエッジ部のやや低めな音の違いを正確に引き出すことができる。また、ピアノも和音に濁りがなくシングルトーンも伸びやかで、美しい響きだ。超低域までのレスポンスと分解能が確保され、ウッドベースの低音部は深みのあるトーンで、ブーミング感をナチュラルかつリアルに引き出す

ことができる。

「D・サンボーン」では、キックドラムの重心が低く量感があるが、ビートの切れや輪郭を曖昧にすることはない。サンボーンのアルトサクソスは、音像を単にクリアに出すだけでなく、アドリブ・フレーズがニュアンスに富み表情豊かに再現された。

同ブランドのリアンプPLPを組み合わせると、真空管アンプとは思えないSN比が確保され、音場空間にさらに広がりが増してくるようになる。また、帯域も十分に確保され、分解能も高く音楽のダイナミクスに正確に反応する感がある。

C265とバランス接続にしたVP

Aは、適度な伸びと量感のある低域の上に、透明で上品な光沢のあるクリスタルタッチの中、高域をバランスよく乗せた、まとまりのいい音を聴かせる。さらに、その音はスピード感があつて切れ込みもいい。ただ、時に、タ

イトでハードあるいはクールでスタティックな表情を見せることがあるが、それがとかくふくらみがちな低音楽器を、ほどよく引き締めシャープに表出するというポジティブな方向に働いているような気がする。

「プルームス」は、付帯音の少ないきれいなヴァイオリンと、流麗でしかも

篠田 寛一

スピード感があり切れ込みのいい上品な音。内に秘めたパワーを伴い、楽器各々の質感も鮮やかに描き出されてリアル

一音一音しっかりと響くピアノとが、しっくり溶け合った爽やかでエレガントな演奏が聴ける。「マラー5番」のオーケストラは、サラッとした爽やかな空気が漂うバノラミックスな空間に、ダイナミクスに広がり迫力がある。また、厚みを伴って鈍く輝く金管、艶やかでしつとりと響く弦といった具合に、楽器各々の質感も鮮やかに描き出されてリアルだ。

「S・ジョーンズ」は、弾力のある柔軟な声で快活に歌うヴォーカルに惹かれる。その声は少し若やいだ感じもする。「ライト&シェイド」は、ピアノ、ベース、ドラムスの各々が分解能高く浮かび上がって実体感がある。「D・サンボーン」は、各楽器を鮮明に再現して賑やかな演奏を聴かせる。しつとりと、しかし内に秘めたパワーを伴って勢よく歌うサクソスがとても印象的。

プリを同社PLP（バッテリー駆動）にすると、中、高域にかけてが一段と透明になり、ディテールがより鮮明に描き出される。ただ、その反面、コクのようなものが後退してやや淡泊な再現になるのも否めない。「マラー5番」は、音場の見通しがさらに良くなり、余韻のような微小な情報までもクリアに再現されるが、オーケストラのスケールはやや小振りになる。「ライト&シェイド」は各楽器をシャープに浮かび上がらせてリアルだが、ピアノやバスドラのアタックはやや控え目。ここはC265の方が実体感豊かに再現する。